

**製品名: Ube1L / UBA7 (12C8) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe19515**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000, ICC/IF 1:100-1:200
分子量	112kDa

**抗原情報**

遺伝子名	UBA7
別名	UBA1B; UBA7; UBE1L; UBE2; Ubiquitin activating enzyme 2; Ubiquitin-activating enzyme 7; Ubiquitin-activating enzyme E1 homolog;
遺伝子 ID	7318.0
SwissProt ID	P41226
免疫原	ヒト Ube1L の合成ペプチド

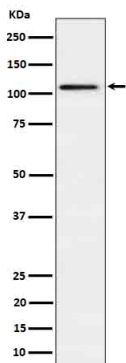
## 背景

ユビキチンを活性化します。まず、ATPを用いてC末端グリシン残基をアデニル化し、その後、この残基をE1のシステイン残基の側鎖に結合させ、ユビキチン-E1チオエステルと遊離AMPを生成します。ユビキチンを活性化します。まず、ATPを用いてC末端グリシン残基をアデニル化し、その後、この残基をE1のシステイン残基の側鎖に結合させ、ユビキチン-E1チオエステルと遊離AMPを生成します。インフルエンザAウイルスNS1タンパク質のISG化を触媒します。

## 研究分野

ユビキチンを介したタンパク質分解、パーキンソン病

## 画像データ



HepG2 細胞溶解物中の Ube1L / UBA7 のウェスタン ブロット分析。